

# 箕郷地域審議会

## 新市建設計画実施計画に係る質疑（ハード事業）

事業名	No.	質 疑	回 答
箕郷第一保育園改築事業	1	解体する講堂の中に、山口薫画伯のアトリエから移したのがある と聞いているが、そのものの活用計画はあるか。	昭和62年に東京都世田谷区の山口薫のアトリエを解体したときに、商工会の青年部と町で出向き、アトリエそのものでなく、中にあった椅子6脚、薪を使うだるまストーブ、石油ストーブ、モデルが座ったソファベットの、アトリエ中2階の薫デザインの手摺り、アトリエの光を調節する障子を移した経緯がある。現在、一つの部屋に片付けてあるが、講堂を解体すると、箕郷地域で保管できる場所がなくなってしまうので、文化課と美術館と相談して、群馬中央中学の旧校舎に移動をしておくことになっている。活用については、郷土の絵の展覧会での展示を含め、今後の課題と考えている。
	2	解体する講堂は、木造の講堂としてかなりの長い間活用されたものであり、材料で歴史的価値のあるものが考えられるが、一律に全部を解体処分するのか、それとも、歴史的価値のあるものは保管する計画があるか。	講堂については、材料等古いものがあるので、解体の前に現況の図面をおこすことになると思うので、その中で全部解体するか、一部を残すか検討していくことになっている。
	3	現在の保育園の駐車場はたいへん狭く、毎日危険な状況にあるが、新しい保育園の駐車場の駐車台数はどれくらいになるか。	現在の園児の送迎用の駐車スペースは非常に狭く、プロポーザルのなかでも、保護者の意見をもとに建築課のほうから提示をさせてもらった。また、職員駐車場の確保についても別の場所で検討しており、これがクリアされると、台数については正確な数字がいないが、現在の倍近くの駐車場が確保できることになる。危険な状況の要因として、出入り口が一箇所であることが考えられるので、出入り口を分けて二箇所にする検討も設計の中で考えていきたい。
	4	保育園の送迎に関して、県道を挟んだ市道を利用するケースが多く見受けられる。近隣住民にもたいへん危険であるので、市道を利用させないようにしてもらいたい。	市道に駐車して、県道を横断して送迎しているケースを多く見受けられる。これは園児にとっても危険なことであるので、駐車場を広げて園の敷地で送迎できる方法を考えていきたい。

事業名	No.	質 疑	回 答
箕郷第一保育園改築事業	5	箕郷第一保育園の廊下、階段の広さはどれくらいあるか。また、0歳児が出入り口に近い位置になっているがセキュリティ的にどうか。	廊下、階段の関係は、園児達の行動に十分な幅を取るようにはさせていただきます。1歳0歳児が一番門扉に近い場所になっている件は、あくまでもプロポーザルの図面であり、保育園のほうでもどのような配置にするのがベストであるか検討中である。1歳児0歳児をひとつの部屋にすることや、セキュリティの関係からの配置について今後の課題として検討する。
	6	第一保育園の建設で、プロポーザルの図面から、遊戯室の上の2階部分に子育て相談室を設けており、この部分で子育て支援をしていくと考えられるが、給湯施設、子育て相談室からの直接の非常階段、収納部分がないので造ってもらえないか。	給湯施設については、要望をふまえていきたい。非常階段については、子育て相談のことを考えても、園の管理としても外から出入りができたほうが良いと考えており、現在、設計内容について検討中であるので、設計の中で反映をさせていただく。収納部についても給湯施設同様に検討課題としてとりあげていく。
榛名白川線道路事業	7	榛名白川線道路事業の進捗状況はどうか。	現状では、県と協調して進めているが、地権者1名について金額的な折り合いがついていない状況である。県道の買収部分の面積が多く市の部分が少ないため、今後も県と協調して粘り強く進めていきたい。
芝桜公園整備事業	8	芝桜公園の駐車場について、売店組合で他の場所を借り受けることになった。市の関係者もそちらに駐車すれば、来園者の駐車スペースが増えて、少しでも渋滞の緩和になると思われるので検討をお願いしたい。	ご指摘、ご提言を充分検討して対応していきたい。
上水道管網整備事業	9	ほかには20年度までの計画が入っているが、上水道管網整備事業については、18年度だけであるがそれ以降はどうなっているのか。	19年度、20年度については、本課の管網整備事業等で、箕郷地区も順位をつけて整備されるので予算が入っていない。
箕輪城跡保存整備事業	10	金山城の整備が、箕輪城整備事業の参考になると思うので、今後の計画の中に入れてもらいたい。	これから第5次の整備計画等も出てくることであるし、保存整備委員会の中でも、いろんな意味で検討しているので、今の意見も充分参考にして計画の中に加えていきたい。

事業名	No.	質 疑	回 答
箕輪城跡保存整備事業	1 1	当面する問題で、搦手口から二の丸に上る道が狭く、特に二の丸を降りたお墓の前が、道が狭く日陰で路肩の砂が流れているため、滑ってすれ違いもできない。1mくらいの道の拡幅ができないか。	史跡地内であるため、最終的には管理用の車以外は入れなくなってしまふ。そんなこともあり、恒久的な対応ができないので、応急的に行事等を行うときに、手を入れて対応できるよう、担当者につないでおきたい。
	1 2	用地買収の予算について、19年度、20年度の予算が少ないが意味があるのか。	基本的には18年度にある程度大きな部分が購入できると、点在する部分が残るだけになるのでこのような計画になっている。金額的には多少計画が変わる場合がある。
	1 3	箕輪城跡の用地の取得率はどれくらいか。また、今後の見通しはどうか。	箕輪城跡の公有地化率については、84.2%になっている。残っている部分についても、地権者の理解と協力を得ながら、来年度以降も引き続き買収に向けて粘り強く対応していく。

#### その他の質疑

No.	質 疑	回 答
1	箕輪小学校の送迎について、法峰寺の参道に駐車して、子供を乗せている。参道を横断する危険なケースを見受けるので対応を考えてもらいたい。	体育館の前を舗装して、駐車場を整備したが、スペースが狭いために、法峰寺の参道を利用しているのが現状である。用地等があれば確保する等色々な検討をしていきたい。学校にも、駐車場所の指導等対策を講じるよう伝えていきたい。
	箕輪小学校の送迎について、整備した体育館前の駐車場の出入りのほうが危険であると感じる。むしろ校舎の裏を使用した送迎を考えたほうが安全でないか。	整備した体育館前の駐車場については、出入り口ののぼりが急であるため危険である。改善については、土木事務所を巻き込んで検討中であり、うまく擦り付けるような対応を考えていきたい。送迎場所の変更については、学校に意見を伝えて対策をどのようにすればよいのか協議していきたい。

No.	質 疑	回 答
2	<p>新市建設計画と新市基本計画で、第4章のネットワークの構築について加わったものと削られたものがあり違っているがなぜか。</p>	<p>新市建設計画と新市基本計画では、第4章のネットワークの構築の部分に違いがある。理由としては、新市建設計画のネットワークの形成の内容については、旧5市町村が合併をする際に均衡ある発展、一体感の醸成を図るために必要な項目をあげたものであり、また、新市基本計画のネットワークの形成については、5市町村合併後の新高崎市と榛名町の合併の視点にたった位置づけになっている。このため、新市建設計画に搭載されていた項目で、榛名町との合併に直接的な係わり合いが薄い項目については特だしをしていない。新市基本計画が策定されても、新市建設計画がなくなるわけではなく、合併後の町づくりのありかたについては、新市建設計画及び新市基本計画ともに基本指針としていきたいと考えている。</p>
	<p>新市建設計画と新市基本計画で、第8章の財政計画について地方交付税がちがっており、23年度で大幅に減っているがなぜか。</p>	<p>新市建設計画における財政推計は、平成16年度を基準年度としており、17年度から27年度までの11年間を当時の財政等の制度や経済状況を勘案して推計した。また、新市基本計画では、平成18年度の地方財政計画等に示された内容を勘案して、18年度の予算をもとに18年度から27年度までの10年間を期間として推計している。中身を比較すると、新市建設計画の推計では、国の歳出の削減の一環で地方交付税は伸びないとしていたが、新市基本計画では、さらに厳しく地方交付税が抑制されるという情報があったので、通常地方交付税の算定をマイナス2%として減額になっていく推計をしている。22年度から23年度に大きく変わっている理由としては、人口が30万人を超えると、5年後には事業所税の課税対象となり、税としては増えるが、増えた部分が交付税として75%が参入されるので、減額として推計の中でも取入れている。</p>
3	<p>猪の被害について、非常に厳しい状況を聞いているがどのような対応を考えているか。</p>	<p>猪については、全国的に被害が広がっている問題であり、有効な柵についての報道もされているので、本庁、県、支所で考えていきたい。</p>
4	<p>審議会について、法律的にどのような位置づけになっているか。</p>	<p>審議会については、基本的には、地方自治法で規定されている。市長の諮問に応じて調査をしたり研究したりする機関として、条例で付属機関を設置することができることになっている。地域審議会については、法律の規定を受けて条例でなく条例と同じ効力を持つ協議により決めている。自治法上の規定の条文については、調べて後日お知らせする。</p>

No.	質 疑	回 答
5	<p>相対的に見て、合併前の高崎市の決算状況と、合併後の高崎市の決算状況で、構成比率等で大きな変化があるか。</p>	<p>財政力指数については、旧高崎市では0.95であったが、合併後は0.85と数字的には下がっている。また、下水道の普及率等各種の率については、合併により動きがある。ただ、地方債の額等を見ても、他市にくらべて悪い状態になったということはない。合併によりこれからスケールメリットが期待でき、より良い方向になっていくという認識を持っている。</p>
6	<p>経常収支比率は現在の95.6%から今後どのように推移していくと考えられるか。</p>	<p>一般的な傾向として、旧町村では県でやっていたものが市で行うようになったようなこともあり、合併直後は一時的に数字上がるようなこともある。傾向としてはこれ以上あがらないと思われる。今後はスケールメリットを見つめながら改善できると思われる。</p>
7	<p>県予算のものも高崎市の事業と関係があると思うが、県のもが入っていないので教えてもらいたい。</p>	<p>今日お示ししたのは、市長から出た予算編成の方針という文書であり、このほかに予算編成要領という事務的な書類で職員には指示を出している。その中で、国の補助事業の関係、県の補助事業の関係、また、県の事業とのすりあわせということで、情報洩れの無いように別途の要領で各所属に指示しているところである。今後も洩れないようにしていきたい。</p>